リコージャパン賞

山崎祐一様/愛知県/73歳/男性/農業/孫にあてた手紙

異国の孫へ

セナちゃん、君が成人する頃には、私は、もうこの世にいないだろう。だから、まだ読めないセナちゃんに手紙を書いておくよ。

昨年、日本に来た時、お風呂に入ったね。セナちゃんはお風呂が大好きになった。そこで、お風呂の話をしてみよう。雪の降るような寒い日に帰って来てね、冷えた体を温めるには、お風呂が一番だ。

そういう時に、お風呂に入ると、少しでも早く温まりたい。そう思うよね。その時のお話だ。

お風呂に入って、最初、湯舟でじっとしている。少し温まってくると、温まった表面のお湯を肩にかける。でも、まだ体全体が温まっていないから、お湯をかけた肩しか温かくない。

ボイルして、温まった表面のお湯を、自分に引き寄せ、自分ばかり温まろうとしても、なかなか温まらない。だからお湯を自分の肩にかけようとせず、温まったお湯を、向かい側のお風呂の壁に向かって押してぶつけてごらん。

お湯の熱い部分と、まだ温まっていない冷たいお湯とが、うまく混ざって、やさしいお湯になる。楽しいよ。体全体が温まってきて、気持ちがよくなる。これが日本のお風呂だよ。

この気持ちは、お風呂だけじゃなくて、お腹がすいた時も同じだ。パンが一つしかなかったら、二つに割って、先に友だちにあげよう。そうすれば、友だちは、美味しそうに笑顔で食べる。それを見ていると、セナちゃんも二倍美味しく食べられる。友だちはきっと「一緒に遊ぼう」と言って、誘ってくれるから一緒に遊べば、二倍楽しい。

日本には、いろいろなお話がある。先人たちは、お話で手紙を書いてきた。それがセナちゃんに送る手紙だよ。

（了）